

6 災害調査 岩手県八幡平恵比須沢雪崩調査 (2005.1.24)

研究代表者	雪氷防災：小杉健二	実施期間	平成16年度
研究参加者	雪氷防災：阿部 修		

[目 的]

2005年1月23日午前9時40分頃、岩手県松尾村の八幡平スキー場西方の恵比須沢において雪崩が発生し、1人が雪崩に巻き込まれ死亡した。本調査の目的は、現場の積雪が時間とともに変質する前に積雪観測を行い、雪崩の規模、種類、滑り面及び積雪構造等を記録し、雪崩災害防止に資することである。

[実施内容]

雪崩発生の日(2005年1月24日)現場において、雪崩跡の全体的状況や植生状況を調査するとともに、十分に危険の無いことを確認した上で、雪崩の破断面近くの斜面上で積雪断面観測を行った。積雪断面観測の測定項目は、雪質、雪温、密度である。

[成果と効果]

雪崩跡の規模は、幅50m、長さ100mであった。雪崩が発生した斜面は、南向きの平面状となっていて、傾斜は40度である。上部の稜線付近に針葉樹とわずかな低木が見られるが、斜面の大部分に植生は見られなかった(図1)。

破断面近くにおいて積雪断面を観察したところ、積雪層の中程の高さにあるしまり雪とざらめ雪の層境界が、雪崩の滑り面となったことが分かった(図2)。滑った層の厚さは80cmであった。積雪断面観測の結果を図3に示す。底面付近を除き、積雪のほとんど全層で雪温は0以下であり、乾雪であった。雪崩の種類は、面発生乾雪表層雪崩であると推定される。

周囲の他の斜面や平地においても積雪断面を観察したが、上記の滑り面直下のざらめ雪層は見られなかった。このざらめ雪層は、雪崩発生斜面が南向きであることにより形成されたと考えられる。

本調査で得られた知見は、今後の雪崩研究や雪崩対策において重要なものとなるであろう。

[所外共同研究]

なし



図2 破断面近くの積雪断面の写真。滑り面となった、しまり雪とざらめ雪の層境界を破線で示す。



図1 雪崩跡の全景写真。

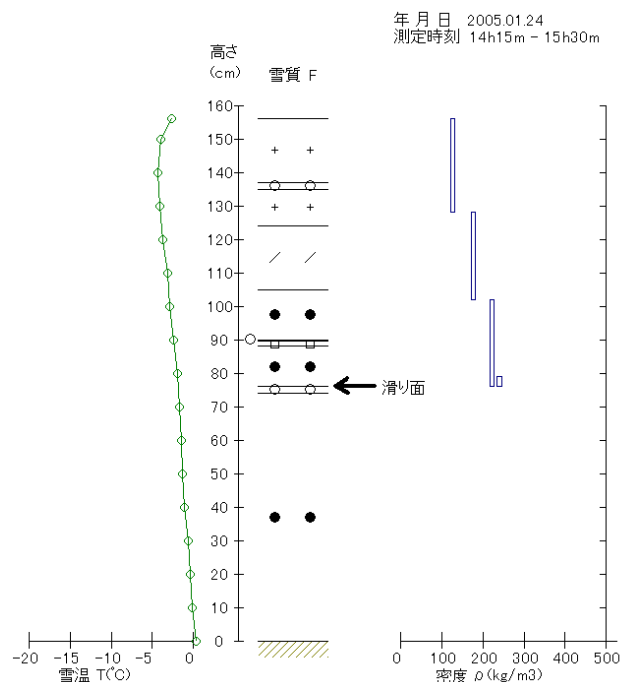


図3 積雪断面観測の結果。縦軸は地面から鉛直にとった高さ。